

新宿ターミナル協議会（第8回） 議事録

1. 日時・場所

平成30年3月9日（金）16時～17時、都庁第二本庁舎31階 特別会議室27

2. 出席者

別紙 参加者名簿のとおり

3. 議題

- (1) 取組状況等について
 - ① 案内サイン等の整備状況について
 - ② 高精度測位社会プロジェクトについて
- (2) エレベーターサイン計画等について
- (3) サイン計画（地下部入口）について
- (4) ターミナルマップ等（中国語・韓国語）について
- (5) その他

4. 配布資料

- ・ 議事次第
- ・ 資料1 案内サインの整備スケジュール
- ・ 資料2 エレベーター、視覚障害者誘導用ブロックの整備スケジュール
- ・ 資料3 高精度測位社会プロジェクトについて
- ・ 資料4 エレベーターサインに関する障害者団体との意見交換会について
- ・ 資料5 エレベーターサインの考え方（案）
- ・ 資料6 エレベーターサイン計画（案）
- ・ 資料7 地下部入口の案内サイン整備の考え方（案）
- ・ 資料8 サイン計画（地下部入口）（案）
- ・ 資料9 案内サイン表記集（日本語・英語・中国語・韓国語）（案）
- ・ 資料10 新宿ターミナルマップ（中国語・韓国語）（案）
- ・ 資料11 エレベーター・階段マップ（中国語・韓国語）（案）

5. 挨拶

[座長 岸井隆幸教授]

今日はお足元の悪い中、ご参集いただきましてありがとうございます。第8回の新宿ターミナル協議会となります。皆さまもうお気づきかと思いますが、既に新宿の駅の中

では少しずつ変化が見えておりまして、この場を使って議論をしてきた成果が少しずつ顕れてきたというのを感じております。オリンピックまで後2年しかございませんし、ますます加速化させて、分かりやすい、心地よい新宿駅にしていきたいと思っております。新宿駅以外にも、渋谷駅、池袋駅等ですね、このターミナル協議会の活動を参考にしつつ、同じような取組がなされつつございます。当然、東京にお越しになる方は色んなところに行かれるわけでもございまして、そういうところでも同じように心地よい駅空間、交通空間を味わえるということを期待しております。今日はその中でも、特にエレベーターのサインのお話でありますとか、多言語対応、そして地下へ入っていく入口のサイン計画等についてもご審議をいただきたいと思っております。新宿ターミナル協議会が多くのターミナルの先頭を切っているということでございますので、関係各位のこれまでのご協力に感謝すると共に、さらに一層、連携を深めて世界に誇れるような、世界一のターミナルにしていきたいと、こう考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

6. 資料説明及び意見交換

岸井隆幸座長： 議事次第に従いまして、進めていきたいと思っております。先ず議題の一つ目は、取組状況等についてということですが、事務局から説明をお願いいたします。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長(事務局)： 事務局の東京都都市整備局の交通プロジェクト担当課長の堀川と申します。それでは、資料1をご覧くださいければと思います。

「案内サインの整備スケジュール」についてです。前回の協議会で取りまとめた「整備計画」に基づきまして、図にお示しましたように工区毎に、現時点の工程をバーでお示ししています。現時点で、黒いバーの部分については、既に整備が完了しており、青いバーは、最新の整備スケジュールをお示ししております。概ね予定どおり進捗してございまして、2019年を目途に、整備が完了する予定となっております。おめくりいただきまして裏面には、案内サインの整備状況としまして、整備が完了した案内サインの一部箇所の写真を記載してございます。一番左側の列にあります指示サインの整備前と整備後というのを比較いただきますと良く分かると思うんですけども、工区毎にバラバラだったデザインや表記のサインが統一されたものになった様子というのが確認できると思います。一番右の列は、新たな図解サインの設置の状況です。現地でも視認性が高いということで、設置直後から、常に多くの方が利用されている状況が見られております。

続きまして資料2をご覧くださいければと思います。「エレベーター、視覚障害者誘導用ブロックの整備スケジュール」についてでございます。エレベーターの整備箇所を赤丸、視覚障害者誘導用ブロックの整備箇所を赤の点線でお示ししています。地上階の方を見ていただきますと、西口から西武新宿駅間の視覚障害者誘導用ブ

ックを整備の予定にしております、2018年度から2019年度を予定スケジュールとしております。これにつきましては、前倒しをして、今年度から整備を開始することとなっております。それから地下階の方では、京王新線通路と南口の間でエレベーターを2018年度から2020年度上半に整備予定となっております。それからメトロ通路を見ていただきますと、西武新宿駅間の部分で、視覚障害者誘導用ブロックの整備を予定しております、これにつきましては今年3月に完成予定となっております。これらの整備につきましては、概ね予定どおり、あるいは予定よりも早く進捗しているというような状況です。

続きまして高精度測位社会プロジェクトにつきまして、今回も国土交通省国土情報課からご出席いただいておりますので、ご説明をお願いできればと思います。

国土交通省国土政策局国土情報課課長補佐（高精度測位社会PJ事務局）： 日頃より私共の高精度測位社会プロジェクトにご協力いただきましてありがとうございます。今年度、実証実験や地図のオープンデータ化等、皆さまにご協力いただきながら進めてまいりましたので、そちらについて、簡単に私からご説明させていただきます。

先ず資料3の1ページ目の下、2ページ目になりますが、こちらは皆さまご承知のことかと思いますが、私共のプロジェクト、2020年のオリンピックに向けて平成27年度から取り組んで参りました。屋内空間というGPSが入らない空間、正確な位置情報というものが得られない空間において、どのように自位置を測位して、更に目的地までのルート等を案内できるか、そういったところについて色々な技術等を用いながら実証的に環境づくりを行う事業を進めております。昨年度、こちらの新宿駅をはじめとした4箇所を実証実験を行いました。その成果を基に今年度は、屋内地図のオープンデータ化という、エリア拡大に向けての取組と、テーマを設けた実証等々を進めて参りました。めくっていただきまして、3ページ目でございます。主な取組として三つ書かせていただいております。一つ目が、モデル地区における先導的実証実験ということで、今年度は2つ行っております。この後の資料の4ページ、5ページで説明いたします。また二つ目として、新宿駅周辺の屋内地図、昨年度の成果として作ったものを皆さまに最終的にご確認いただきまして、昨年11月に第一号としてG空間情報センターよりオープンデータ化しております。また、三つ目は一昨年から進めておりますが、事務局として実証実験を行うだけでなく、やはりオリンピック、パラリンピックに向けた広い普及、広がりというものを目指しまして、たくさんの民間のサービス事業者の方々に作った環境を活用して実証実験等を行っていただいております。それぞれにつきまして、4ページ目から簡単にご説明させていただきます。今回、地図を自分で見ることのできない視覚障害の方に対して、地図をご覧になっていただくということだけでなく音声でどのようなルートであったり、空間の状況というものを伝えるかということの一つテーマとしまして、それに必要な地図の要件というもの、どういうものがあるか、それを使っ

て、アプリケーションをつかって、ナビゲーションを試みることで、そちらの有効性について確認する、という実証を行っております。こちら事前に視覚障害の方であったり歩行訓練士であったり、そういった方々のヒアリングで、こういった要件がそもそも有効と考えられるか、例えば段差情報であったり、店舗の情報であったりをヒアリングから抽出しまして、それが比較的多く含まれるエリアとして、東京駅の地下の一部エリアで行っております。実際にナビゲーションをやっていただきまして、その後アンケート等により、今回はまだ取りまとめ中ではありますが、やはり段差情報や階段情報というのは、確実にその場所が分かるので、非常に有効であるといったことや、また改札というのは、実際に改札を通るわけではないにしても、自動改札が開く音というのがよく認識されるということで、自位置がどこであるかというのを把握するのに非常に有効であるといったことなどが得られておりまして、こういったものを今後の地図を整備していくにあたっての、要件としてまとめていきます。5 ページ目、こちら屋内外シームレス測位サービス実証ということで、昨年度までの実証実験は屋内空間という構築した環境の中においてのみでしたが、今年度については、屋内から屋外について、シームレスにつながった案内ができるかどうか、ルート検索ができるかどうかといった検証を行いました。こちらについては、バリアフリーのルートとバリアフリーを加味しない最短ルートという二種類の検索を行いました。それぞれについて実証で作った屋内地図、それから屋外については NTT ドコモにご協力をいただきまして、ドコモで作っていらっしゃる地図、ネットワーク。そういった環境を提供いただいて、それを接合するということを実践する中で実現をして、サービスを行っております。それにあたって、民間の既存のサービスとつなげる際に、こういったところが現実的に課題になってくるのか、実際にアプリケーションを提供した際に、スムーズに切り替えができるかどうかを検証しました。こちらについて検証そのものは、今回新しく地図等を作成した新横浜駅を中心に行っておりますが、今回構築しました今年度のジャパンスmartナビについては、一番下のところに書いてございますが、2 月中、一般公開をしております、それに併せてこちらの新宿駅周辺、昨年度は Android 版のみの提供だったのですが、今回 iOS 対応の測位も可能といたしまして、Android と iOS、双方で体験いただけるかたちで一般公開をしております。今回の実証も最終的な成果を今まとめているところではございますが、民間サービスというとネットワークのデータが必ずしも全てオープンになっていない状況での接合実験でございましたが、やはりうまく接続ができない、というような課題も見えてきておりまして、如何にオープンデータの下で、それぞれ屋内、屋外というものをつなげていくかということが課題になってくるというのがひとつ出てきてございます。

続きまして、6 ページ、先ほど申し上げましたが新宿駅周辺エリアにつきまして

は、第一号として成果のオープンデータ化をさせていただいたところでございます。7ページは参考に、今回公開いたしましたG空間情報センターについての一般情報、8ページ、9ページ目は、取組の関連でご説明しました、民間事業者が参加した実証が一覧となっております。こちらも参考に見ていただければと思います。

最後10ページ目、こちら事前にも一度資料をお送りさせていただいたところで、今後試行的にやっていきたいということで検討を進めているものでございます。今ご説明したように、新宿駅というのは地図もオープンデータ化となりまして、また、実証において構築しましたビーコン等のパブリックタグに登録するかたちで全てオープンになってございます。今年度、iOSによる測位というものが実現しているという状況で、我々実証の中で構築してきたエリアの中でも、こういったICTを活用した様々な取組が、取り組みやすい環境となっております。また、こちら新宿ターミナル協議会においても、さらにICTの活用による利便性の向上ということで皆さん取り組んでおられているということで、私共として、今後こういった位置情報サービスの活用を図るにあたって、ひとつやはり研究者の方々等から、ぜひ継続的に実証環境、実証が可能な環境というものができていったら良いなということでご意見をいただいていたことも踏まえまして、この新宿駅の様々なオープンデータ化された情報というものを活用していく、活用を促進していくために何かお手伝いができればということで、今回検討してございます。実際にやろうとしていることというのは、一番下の図のように、今回、データそのものはオープンになっているので自由に使える状況ではあるのですが、実際に何か取組みたいといった際に、どちらかに相談すれば良いのか分からない、というのをよく我々も聞いております。ターミナルという特性上、そのエリアの管理者が誰なのか、というのがやはり一般の方や研究者の方からは見えにくい、というように伺っておりまして、それを踏まえまして、ひとつ総合窓口、こういったことをここでやりたい場合に誰にお聞きすれば良いのでしょうかというところを、交通整理をして立ち上げるということで、その窓口を、私共国土交通省と、新宿ターミナル協議会の事務局を担当されている東京都と連携しまして、窓口として試行的に取組んでいきたいということを考えております。こちらの個別の案件について私共窓口のほうで何かやって良い、やってはいけないということを申し上げるものではなく、そちらは基本的にやはり施設管理者の方の責任でご判断頂く部分かと思っておりますので、その前の、例えばこうした様式がありますよ、というような事前調整というものをしっかり行って、こうやって折角構築した魅力的な環境というものを使いやすいかたちに持って行きたいというふうに思っております。今回、こちらでもってすぐに始めるということではなく、方向性を皆さまにご了解いただけましたら、個別に調整をさせていただいた上で、取組を始めたいと思っておりますので、引き続きご相談をさせていただければと思っております。今年度の取組、様々な行ってまいりましたが、オリンピック、パラリ

ンピックに向けて、中間年が終わったところと認識しておりまして、この取組がより実装に近づくということをお願いしまして、来年度以降、事務局として実証についても、今年度、民間のサービスを使って実証を行ったように、来年度以降、より民間事業者の方々と連携をした、官民一体となってしっかり実証等を進めて、オリンピック、パラリンピックに向けて進めていきたいと思っております。また、オープンデータ化された地図につきましても、今回新宿駅周辺のみということになっておりますが、他の実証エリアについても、調整を進めまして、オープンデータ化ということは今考えてエリアの拡大にも取組んで参りたいと考えております。長くなりまして申し訳ありません。以上です。

岸井隆幸座長： 状況報告はこれでよろしいでしょうか。それではここまでの説明に関して、ご質問、ご意見をいただきたいと思っております。或は補足でも何かありますでしょうか。

赤瀬専門アドバイザー： 資料1の裏面で、案内サインの整備状況のご説明をいただきました。実際に現場も拝見して随分進んできたなあと実感し、協議会メンバーとして大変有難く思っています。その中で、器具を新設したルミネ工区や灯具をLEDに入れ替えた小田急工区は、その情報伝達性能が圧倒的に良いですね。非常にきれいに均一な表示面が確保されていて、それが情報伝達力を高めています。当面は既存サインの表示面交換に限った工区もありますが、今後機会があれば、照明器具の入れ替えなど、画面のインパクトを強めていただくと一層良いかな、とそんな感想を持ちました。

岸井隆幸座長： もっと頑張れ、と、こういうお話だと思います。よろしくお願ひしたいと思っております。他には何か特にご質問、ご意見ございますか。よろしいでしょうか。皆さま関わってらっしゃいますので大体状況はご存知かと思っておりますが、それでは議題の2番目の方に移りたいと思っております。エレベーターサイン計画等について、それではご説明をお願いいたします。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長(事務局)： エレベーターサイン計画等について、資料4から6まで関連しているので一度に説明させていただきます。

先ず資料4「エレベーターサインに関する障害者団体との意見交換会について」でございます。エレベーターサイン計画案の検討に当たりまして、障害者の意見を聴くことを目的といたしまして、実施したものでございます。実施の概要はそこにお示ししましたとおり、都営大江戸線の新宿西口駅に、試験的にエレベーターに関する案内サインの掲出をいたしまして、それを障害者団体の方々と一緒に大江戸線と丸ノ内線の乗換経路を移動しながら確認して、サインの見やすさの検証を行いました。その後、意見交換会を行っております。開催日時、参加団体については記載のとおりでございまして、車いす使用者、聴覚障害者、視覚障害者の方々にご参加をいただいております。いただいた意見を整理したものが、次のページの表でござ

います。エレベーターサインの表記全般、それから掲出高さや指示サイン等の各サインにつきまして、障害者の方からそれぞれの視点でご意見をいただきました。その右側に対応方針の案を整理してございます。例えば、一番上の表記全般についてのところの意見をご覧いただければと思いますけれども、エレベーターの通し記号というものをサイン計画の中で設定いたしましたけれども、アルファベットを用いたものですが、「これだけではどこに行かれるのかイメージしにくい」というような意見がございました。一方で、「個人的にはエレベーターの通し記号はアルファベットで良いと思う」というような意見もございました。ということで、サイン計画は既に始まっておりますし、このエレベーターの通し記号はアルファベットでいくということとしておりますけれども、どこに行けるかイメージしにくいというお話と、その次のご意見での「乗り換え経路、次に乗るエレベーターの経路、の案内があった方が良い」のではないかといったご意見もございましたので、エレベーターの行き先や経路につきまして、停止階案内や図解サイン、指示サイン等で分かりやすく表示していく、という方針にしてございます。

このように、ご意見を踏まえまして、見やすく、分かりやすくなるような表記の工夫というか、配置といったところで、エレベーターサイン計画に反映していくような方針案として整理をしてございます。この表の裏側の方のページですけれども、エレベーターサイン以外についていただいたご意見についてまとめたものです。案内サイン全般やバリアフリー、マップ等、幅広く意見が出ましたので、本協議会と各事業者の取組の参考として情報共有させていただきたいと思ひまして、記載をしてございます。

続きまして、資料5をご覧いただければと思います。エレベーターに関する案内サインの考え方(案)についてです。8月にまとめました整備計画に基づきまして、先ほどの視覚障害者の方のご意見も踏まえまして、表記の考え方や例等をさらに追加をしたようなものでございます。エレベーターサインの目的につきましては、段差に対する迂回経路の案内を充実させるということでございまして、これに向けてエレベーターに関する案内サインを独立させて、今まで既に整備がはじまっているサインと、独立したサブシステムとして計画をいたしまして、各管理者で整備をしていくというようなこととございます。基本的な考え方としまして、ここに挙げてございますけれども、エレベーターに通し記号を付けて、指示サイン、図解サイン、同定サイン、それから停止階案内、といったもので案内をするというようなものでございます。サイン計画で示しました、指示サインと整合を図ったものでございます。使用する色彩としましては、色覚障害者等に配慮して、明度差、彩度差を確保した配色とするということで、ベースの色は下の図にございますような青色とするということとしております。それから、指示サインと同定サインにつきましては、遠くからでも視認できるように可能な限り大きな文字ということで、下の図のよう

な「C」とか、そういったものが遠くからも見えるようなかたちとしております。それから図解サインと停止階案内の掲出の高さにつきましては、車いす使用者と立って見られる方と双方の視野の高さをですね、踏まえまして、原則として中心の高さを地面から 125 cm とする、としてございます。整備の例のところ、各サインの配置をお示ししてございます。エレベーターの位置を案内する指示サインとそれから図解サインを、乗り換えの動線上に設置いたしまして、それからエレベーターの扉の上部には同定サイン、扉の隣に図解サイン、それから操作盤の隣に停止階案内を設置するというようなものです。更におめくりいただきまして、裏面の方で図解サインの例をお示しをしています。エレベーターの位置を、地下と地上の地図に落したものでございまして、エレベーターの移動による上下のつながりを線で表現しています。図の右側に引出しているのが先ほどの障害者の意見が出たものを反映した主な箇所です。地図は、階層毎に色分けをし、高さの違いがあることも表現してございます。それから、現在どこのエレベーターの前に居るかというのが一目で分かるように、赤色で強調してお示ししてございます。その下の図の停止階案内の例ですけれども、これは各階で降りてどこの路線とか目標地に行けるかという情報ですが、基本的に 8 月にとりまとめたサイン計画と整合させたような表示としまして、結節空間、交通施設、それから目標の方面といった体系としていまして、それに加えてピクトや表示内容も統一したものとしてございます。それに加えて、経由するエレベーターを記載いたしまして、エレベーターを降りた後、次にどのエレベーターに乗れば良いかといったことも分かりやすくしています。それから一番下の整備の進め方でございますけれども、まずエレベーターサイン計画というもので、エレベーター毎の形状やスペースに応じて、各サインの配置、それから表示の内容の詳細を定めていきます。それに基づきまして、計画的に整備を行うものとしてございます。

この考え方に基づいて作成したエレベーターサイン計画の案が次の資料 6 でございます。一枚おめくりいただきまして、計画図 1 から 8 と書いてございまして、工区毎におまとめをしております。次をおめくりいただきますと、建設局工区から開始をしております。数字が振ってございますけれども 1-1、1-2 は数量表となっております。1-3 ページは配置図、1-4 からはサインの詳細を示しております。指示サインが先ずございまして、1-5 にエレベーターの周辺に設置をするサイン、それから 1-6 にカゴの中に停止階案内を表示するサインといった図になっております。それからその隣が地上階に掲出する同定サインとなっております。次の 1-7 ページが拡大図となっております。その他のエレベーターにつきましても、基本的には同じような構成で計画図をまとめております。説明は以上です。

岸井隆幸座長： ただいまのエレベーターサインについて、ご意見をいただきたいと思っております。事業者の方とは予め相談をされた上でサイン計画案を作られているという

ことによろしいですよ。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長（事務局）： はい、事前に各事業者の方と調整をしてございます。

赤瀬専門アドバイザー： ご説明をありがとうございました。資料5のエレベーターの考え方の裏面の最後に「他の案内サインと同時期に整備するなど、計画的に整備を行う」と記載されておりますけれども、あいまいなので、もう少し具体的に見えるのと良いと思いますが。

岸井隆幸座長： 先ほどのサイン計画の整備スケジュールとは同じではないということですか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長（事務局）： この、他の案内サインと同時期に、というのは、最初にお示ししましたサインのスケジュールを想定しておりまして、できればそれと合わせられるものについては合わせて整備していくことを考えておりますけれども、完了した工区もございますので、そうしたところにつきましては、具体的にまた今後調整していければと思っております。

岸井隆幸座長： 後1、2年のうちには整備されるということですね。他にはいかがでしょうか。各事業者と調整してきたということなので大丈夫ですか。

国土交通省関東運輸局交通政策部長： 先生からどこまで広がるんでしょうかとお話がありましたけれども、「Z」までいったら、その後は「AA」とかになるんでしょうか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長（事務局）： 現時点でこの範囲内で増えていくものは足りるだろうと想定しておりますけれども、さらに広げる場合のやり方については、今具体的な予定はありませんけれども、その際には検討したいと思えます。

岸井隆幸座長： 今のところ「Z」までで足りるだろうということですね。よろしいでしょうか。それではこれも先ほどの案内サインの整備と共にですね、進めていただきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。それでは議題の3番目、サイン計画、地下部入口についてですね、よろしくお願いいたします。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長（事務局）： それでは地下部の入口の案内サインについて、資料7をご覧くださいと思います。「新宿ターミナル地下部入口の案内サイン整備の考え方(案)」についてございます。経緯でございますが、これも皆さまご承知だと思いますが、前回の協議会でもターミナル内の乗り換えと周辺の目標地への案内につきましてはサイン計画として取りまとめを行ったところがございますけれども、地上から地下部へ通じる入口の案内サインにつきましては、別途検討課題となつてございました。多くの改札や通路が地下部にございますけれども、現況では十分な案内ができていないということもございまして、地上から駅への行き方が分かりにくいという声も、多くございます。この度、地下部入口に設置いたします広域的なサインにつきまして、追加的に位置づけて、整備をしていく

というようなことをごさいます。対象箇所をごさいますけれども、新宿ターミナル協議会の対象範囲内をごさいますして、それから地上から地下の交通施設に行く主な歩行者動線上にある主なものとしてごさいます。それから整備の内容としまして、原則としましては、入口の1箇所につき案内サインを1基以上設置すると。それから地上入口から地下部までの通路の途中にも必要な場合には設置し、それからそのサインの裏面にも、出口の案内を表示する場合には併せて整備をしていこうということです。それから既存の案内サインの盤面の取替を行う等、効率的に整備をするということを原則として想定をしてごさいます。おめくりいただきまして、裏面をご覧いただければと思いますけれども、表示レイアウトの考え方でごさいます。一番下のレイアウトの例をご覧いただくと分かりやすいんですけども、表示する情報は左側から、新宿ターミナルのロゴ、それから下向きの矢印、それからその右側に地下部の情報、地下部の情報としましては、結節空間のロゴがあって、ピクトグラム、それは交通施設や駐車場ですとか観光案内所のピクトグラム、それから路線名と路線マーク、そういったものでここに該当するものを表示するというごさいます。下りた場所が結節空間の中にある場合、このレイアウトの例ですと、下りたところがメトロ通路にあるというような場所ですと、その場合に結節空間ロゴは省略しておりまして、その分、丸ノ内線、大江戸線といった路線名を可能な限り大きく表示するとしてごさいます。それからこの表記につきましては、8月につくりましたサイン計画と整合を図ったものとしていきます。盤面の大きさとか形状がそれぞれ異なりますので、それに応じまして、新宿ターミナルのロゴの大きさですとか段数ですとか位置ですとかを調整をしまして、その中で路線名等の文字がですね、できるだけ大きく確保できるように配置をしていくという考え方でごさいます。それから出口番号につきましては、右上、またはレイアウトの都合上では右下に配置をするということとしています。後は会社のロゴ等、既存の盤面で掲出されている情報との共存については、その必要がある場合にはですね、共通のこういった情報が表示できるといった場合のみとしまして、新宿ターミナルのこのロゴの大きさと同じ程度を限度として表示することとしてごさいます。

こういった考え方に基づいて作成いたしました計画の案が次の資料8でごさいます。計画図を工区毎にまとめています。これも一枚おめくりいただきまして次ページから工区毎にまとめておりまして、さらに次のページからは建設局工区となっております。またおめくりいただきまして、10-1-1 ページが数量表、次の1-2 が配置図となっております。10-1-3 がサインの詳細をお示ししてごさいますして、先ほどの表示レイアウトの考え方に基づいて、その場所毎の位置や条件に応じたものとなっております。他の入口やその他の工区につきましても、同様の構成で計画図をまとめてごさいます。説明は以上です。

岸井隆幸座長： ただいまの地下部入口のサイン計画に関して、ご意見を何かいただき

たいと思います。いよいよ地下から地上に出てくるわけですが、さらに地上部にもサインが出てくるんですか。これはまだ議論ができてないのでしょうか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長(事務局)： 地上に出たところで可能な場所には、前回の計画の中で図解サインを掲出することとしております。ターミナル協議会としては、出口の手前の案内、それから出口を出たところのサインというところが対象かと思います。

岸井隆幸座長： そうなんですけれど、先ほどの資料1のスケジュールというのは、基本的に地下の話だということで、上の地上部についても何かあるのでしょうか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長(事務局)： スケジュールの下に図がありますけれども、地上階にも西武新宿駅や西口、東口といった工区がございまして、地上階にも交通施設に行くための案内サインの計画がございまして、それを含めた計画でございます。

岸井隆幸座長： 後はその先をどうするか、という話ですよね。地上部に関しては何か新宿区さん、ご説明されることありますか。次は地区の話、街の話になりますよね。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長(事務局)： 補足いたしますと、後は歩道上に観光案内マップを、現在でも表示しておりますけれども、ちょうど今、新宿駅周辺については更新が進められているところでございます。その際に、このターミナル協議会で作成した地図とできるだけ整合させていこうということで、今回設定しました、結節空間ロゴを観光案内のマップにも表示するといったことで今進めているところでございます。駅を出たところに掲出する観光案内につきましては、ターミナル協議会のデザインと同様に、同心円で周りの距離、目安の時間をお示しするという事も進めている状況でございます。

岸井隆幸座長： 全く一緒というわけにはいかないけれど、ほぼ情報として同じようなものが伝わるような、更新を周辺でもやっていると。それを新しく付け替えるというよりは、盤面の切り替えの時期にそれを行っていくと。そういうことですかね。

都市整備局交通政策担当部長(事務局)： ちょうど今更新の時期になっていまして、駅の周りで、50枚程度、広がりを見せているというところでございます。

岸井隆幸座長： 外も同じような雰囲気となることですね。他には何かありますか。よろしゅうございますか。駅から出たところ、それから街のサインについては渋谷区も、豊島区も、渋谷も池袋も同じように検討を重ねてきておりまして、それぞれ少しずつ工夫を施そうと今されていますが、なるべく駅の構内もしくはコンコース、駅前広場、街、とスムーズにつながるように、同じような情報がしっかりとお伝えできるようにしたい、としていて、これも調整中ですが、順次ご報告もできればしたいと思っています。それでは、とりあえず一旦、今の話は終わらせていただいて、次は多言語対応のことですね。ご説明をお願いしたいと思います。

都市整備局都市基盤部部長(事務局)： それでは資料9をご覧くださいと思います。

案内サインの表記集でございます。案内サインで表示する情報を、日本語、英語、中国語、韓国語で、どういうふうに表示するかということを表でまとめたものでございます。2016年3月の基本ルールの時にはですね、一旦とりまとめたんですけども、今回、改めて情報収集、それから照会をかけた上で更新したものでございます。4ページまでございますけれども、案内サインに出てくるものはこういった表記としております。この表記集に則りまして、ターミナルマップ、エレベーター階段マップにつきまして、中国語、韓国語版の作成をいたしました。それが後ろに付けてある地図でございます。2枚でございます。基本ルールでは、多言語対応として、日本語・英語版と中国語・韓国語版の2種類を作成することになってございましたので、これに基づいたものでございますけれども、既に配布をしておりますマップで日本語・英語版というものがございますので、これに加えて、中国語、韓国語をカバーすることで、より多くの外国人の方々にとって、ターミナルが分かりやすくなる、利用しやすくなるというものでございます。説明は以上でございます。

岸井隆幸座長： お手元の大きなA3版が、作成したものということですね。中国語、韓国語、これはチェックは誰がされたんでしょうか。我々正直言って分からないんですが。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長(事務局)： 協議会のメンバーの方にも、関連する施設のことについてはご確認をいただいたことと、後はホームページ等で出されている、会社毎の施設の中国語や韓国語訳を確認したこと、それと委託業務の中でネイティブの方にもチェックを頂きました。

岸井隆幸座長： ネイティブチェックは一応入っているということですね。これに関しては何かいかがでしょうか。何かご質問、ご意見いただきたいと思います。私から、一番最初に説明のあった、国交省の高精度測位社会プロジェクトと、この多言語については、オープンデータ化したので、後は勝手にやってくださいということになるんですか。

国土交通省国土政策局国土情報課課長補佐(高精度測位PJ事務局)： 今データの表記については日本語となっております。最終的にアプリ等で使われる際には、基本的にはサービス事業者側でご対応いただきたいと思っていますところ。ただ、来年度以降で、実証等において、昨年度の実証で、我々の提供したアプリケーションの中でも外国語対応ということをやったように、実証の中で、多言語の取組というものを盛り込むということは想定をしております。

岸井隆幸座長： 実証レベルのものと、それから実装される場合に、民間の方たち、あるいは鉄道事業者の方たちがサービスでお出しになると、それは多言語で自分で選択したならば、当然多言語で表示されると、その部分に関しては、今回ここで作った表記集というのは、共有化されるんですかね。されるシステムになっているんでしょうか。

国土交通省国土政策局国土情報課課長補佐（高精度測位 PJ 事務局）： 私共の場合、ベースとなる地図を公開させていただいているので、そういう意味で自動的に、というわけではないんですが、地図そのものはターミナル協議会のマップをベースに作らせていただいているので、協議会で出されているデータと私共の地図を関連付けて使用することは可能だと思っております。

岸井隆幸座長： この、今日の資料9に出ている、表記集と同じ使い方がそれぞれのアプリでされてるということになるのかどうかということ。これは今日我々の中で、議論して、このマップとして使う時はこうしよう、ということにはなったんですけど、各社とか各民間の方々が作る際に、この表記集の通りに作ってもらえるのかどうか。或は、作ってください、という機会があるのかどうか。

国土交通省国土政策局国土情報課課長補佐（高精度測位 PJ 事務局）： そこではと、やはり最終的にアプリを作る事業者の方になるので、オープンデータにしている例えばですが G 空間情報センターから、地図を例えばダウンロードいただくときに、こういった対応されているものが、一緒に見えるようなかたちで公開していく部分かなと思いますので、そこはご相談をさせていただきたいと思います。

岸井隆幸座長： ぜひそうしていただけると広がっていくんだと思うし、そうしないとこれまで各自が持ってきた独自の翻訳のシステムで動き出して、同じ言葉が違う中国語であるという懸念もあると。資料9をオープンデータにして、できるだけ広く知らせ、或は基礎データを出すときに一緒にこれをお渡しするといった仕組みがあると良いですね。いかがでございましょうか。多言語対応は、それぞれ事業者の皆さん、かなりやっているという理解で良いでしょうか。アプリケーションなのか、ソフト、スマホでやっているのでしょうか。スマホレベルで多言語をいっぱいやっているということによろしいのでしょうか。

東京地下鉄株式会社鉄道本部鉄道統括部長： 多言語で見られるようにはなっています。

岸井隆幸座長： 今回は、一応資料9についてはお目通しいただいているのだらうと思いますけれども、できるだけそういう時にも、これをなるべく使っていただけるようにしていただければ、共通になりますよね。

赤瀬専門アドバイザー： 重ねての発言になりますが、岸井先生のご心配の通り、事業者によって色んな言い方をしているように思います。ですから、今回東京都の整理をより強くアピールしていただいて、これで統一していくような手続きを進めていただけると、一層、良くなるのではないかと思います。

岸井隆幸座長： 私自身は全然理解できていないので正しいかどうかは疑問なんですけれども、一回決めたらやはり共通でやっていかないと混乱をきたすだけになりますので、もちろん改訂するときは改訂しても良いですけれども、ご協力して作っていただいている以上、どうぞよろしく願いいたします。

他に特にご意見、ご質問ございませんでしょうか。今日の用意していただいた議

事は以上でございますが、これからについては何か、特に皆さんに情報提供をしておくことはございますか。この協議会の今後、或は、今年度はもうないでしょうが、来年度に向かってこんなことをしようと思っているといったこと、何か情報提供があればお願いします。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長(事務局)： 協議会につきましては来年度も引き続き継続していくことを予定しております、今日もございましたけれども、整備の状況等の情報共有や、それから他の、例えば駅の色々な工事に伴いまして、案内サインの変更が必要になった場合の改訂作業、他のバリアフリーやサービス向上のための取組の情報共有や新たな取組についての話もできればと思っております。

岸井隆幸座長： 他のターミナルに比べて先頭切って走ってきたということで、現場もかなり動いてきておりますので、それによって評価もきっと出てくるかもわからないので、それはそれで真摯に受け止めたいと思いますし、更に他のところとの連携を強化すると、新宿と街とも強化するし、渋谷とか池袋とも強化するし、東京駅とも強化するし、そんなふうな広がりを持ってこの動きが出てくれば良いと思うんですが、そもそもこれをやる時に、様々な駅の結節点の整備を国並びに都が補助を出そうということで、幾つか駅を選定されましたよね。ああいう駅はこれと同じように動いていると理解してよろしいですか。

都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長(事務局)： それでは他の駅への展開について、情報をご提供させていただきます。特に資料はございませんので口頭で失礼しますけれども、昨年度の交通戦略推進会議の検討を踏まえまして、東京2020大会に向けて、新宿駅と同様の取組を他のターミナル駅にも拡大していくこととしてございます。先ほどもお話もありました、改善に取り組む駅といたしまして、新宿の他にも、渋谷、池袋、東京、品川、浜松町、日暮里、八王子、立川といった九つの駅を位置づけておりまして、これは地元区市の主導で関係者による検討体制を構築して取組を進めていくという方向でございます。現時点でこのうちの六つの駅については既に検討体制ができておりまして、その他の駅についても、検討体制の構築に向けて調整しているという最中でございます。特に渋谷、池袋につきましては、案内サインに関する基本的なガイドラインをまとめておりまして、現在、具体的な検討をさらに進めているところでございます。それに続きまして他の駅につきましても、基本ルール等の検討などが行われております。引き続き、他のターミナル駅で取組を進めるためにですね、新宿ターミナル協議会の先駆的な取組事例を活用させていただくということと、各委員におかれましては、他の駅でも関係することがあるかと思っておりますので、新宿駅での経験を踏まえてご協力いただければと思います。

岸井隆幸座長： このように他の駅でも動いていましてですね、ここでやっていること

がじわじわと浸透してくる、はず、なんですけれども、時としてやはり独自性を求められる駅もあろうかと思しますので、適切にやはり情報共有しながら、特に鉄道関係の方々と同じ路線で違うことが起きるとまた更にややこしいので、目配りをぜひお願いをしたいと思います。新宿のみならず他の駅でも動いているということで、そういうところに対する目配りもお願いできればと思います。特に先生最後にございますか。

赤瀬専門アドバイザー： 一般に、整備の質を保つためにPDCAサイクルを維持することが重要と言われていています。新宿も段々具現化してきましたので、来年度以降、チェックを進め、手を入れながら磨きあげていく発想でこの協議会が継続され、他駅にもうまく影響を与えていければ大変好ましいと感じております。

岸井隆幸座長： 必ずしも良い評価ばかりと限らないので、そこは真摯に我々もですね、直すべきところは直さないといけないと思しますので、頭を固くするつもりは全くないんですけど、とりあえずファーストステップとして新宿が先を走っておりますので、このノウハウを各駅にも伝播して、少しでも全体が上がるように、そして、新宿もさらに磨きがかかるように、していきたいと思っております。最後に何かご発言があればお受けしますが。よろしいでしょうか。これまでかなり事業者の方とは個別に詰めてここに아가ってきておりますので、それぞれの分野については調整が行われたものがここにাগってきたという理解なんですけど、連携をとるとということについて、色々と問題も出てくることもあろうかと思っております。ぜひご協力をお願いしたいと思います。それでは一旦、事務局にお返ししたいと思います。

都市整備局交通政策担当部長（事務局）： 丁寧なご審議をありがとうございました。来年度以降の流れにつきましてもアドバイスをいただきまして、胸を熱くしているところでございます。今日ご議論いただきました、エレベーターサイン計画、入口部のサイン計画、また中国語・韓国語マップにつきまして、全て取りまとめいただきまして、ありがとうございました。各事業者の皆さまにおかれましては、この協議会に基づきまして、資料1にもございましたが、サインの整備もこれから本当に、姿もよく見えてきて、色んな声も聞こえてくるかと思っております。マップも配布がありまして、新宿区さんから、色んな声があがってきていると伺っております。事業者の皆さま方にも色んな声が届いてくるかと思っております。率直に色々と教えていただければと思います。そうした話を聞かせていただいて、より良いものとしていきたいし、またそうした声を先ほど岸井先生からもお話いただいておりますが、9駅に展開しております。そうした話を伝えて、色んなかたちで東京都の中の駅を、先頭切っている新宿駅から東京全体に広げていきたいと思っております。どうぞご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

皆様方にはご多用中にもかかわらず、ご出席いただきありがとうございました。
それでは、これをもちまして、本日の第8回「新宿ターミナル協議会」を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上

新宿ターミナル協議会（第8回）

出席者名簿

	役職名	出欠
座長	岸井隆幸 日本大学大学院理工学研究科教授	出席
専門アドバイザー	赤瀬達三 株式会社黎デザイン総合計画研究所代表取締役	出席
委員	国土交通省関東地方整備局東京国道事務所長	出席
委員	国土交通省関東運輸局交通政策部長	出席
委員	東京都都市整備局都市基盤部長	欠席
委員	東京都都市整備局交通政策担当部長	出席
委員	東京都建設局道路保全担当部長	代理
委員	東京都交通局企画担当部長	代理
委員	新宿区都市計画部長	代理
委員	新宿区みどり土木部長	出席
委員	東日本旅客鉄道株式会社東京支社総務部企画部長	出席
委員	東京地下鉄株式会社鉄道本部鉄道統括部長	代理
委員	西武鉄道株式会社鉄道本部計画管理部長	代理
委員	京王電鉄株式会社鉄道営業部長	代理
委員	小田急電鉄株式会社交通企画サービス事業本部執行役員交通企画部長	代理
委員	株式会社ルミネ開発企画部長	出席
委員	新宿サブナード株式会社総務部開発推進担当部長	出席
委員	京王地下駐車場株式会社事業部部長	出席
委員	一般社団法人東京バス協会理事長	代理
委員	一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会専務理事	代理
委員	一般社団法人東京個人タクシー協会副会長	代理
委員	公益財団法人東京タクシーセンター指導部長	出席
オブザーバー	国土交通省鉄道局都市鉄道政策課駅機能高度化推進室長	出席
オブザーバー	国土交通省都市局街路交通施設課街路事業調整官	欠席
—	国土交通省国土政策局国土情報課	出席